

# 二〇〇二年フィリピン慰霊巡拝の旅

副理事長 塩川正隆

六月三十日から七月四日までフィリピン慰霊巡拝の旅に出かけた。

今年の参加者は坂本さん(福岡県宮田町僧侶・战友)と土手本さん(北九州市遺族)小林さん(兵庫県遺族)、佐賀新聞梶原記者と私の5人であった。多い時は三十人近い団体が訪れたこともあったが、最近参加者がめっきり減った。戦後五十七年が経過したが、戦争はまだ終わっていない。フィリピンで旧日本軍

は五十万人もの戦没者(行方不明者含む)をだしながら、戦後遺骨として帰還した者は僅か十万人で約四十万人の方が未帰還である。自分の肉親はまだ生きていっていると信じていると言う遺族さえおられる。私の祖父母も息子は生きていっていると亡くなった。

今回の旅でもレイテ島で現地の人より十数体の遺骨が持ち込まれた。また、レイテ島の各地(四ヶ所)には遺骨があると

いう情報が寄せられている。

日本政府遺骨収集団は私たちがボランティアや現地から寄せられた情報を元に受領に行くだけで、毎年帰還する遺骨は全世界で千体に満たず、このままでは、千年かかっても事業は終わらない。日本政府もアメリカがベトナムで行方不明者の捜索を行っているように、真剣に捜索活動を行った、ほしいものだ。

七月一日午前七時マニラからレイテ島タクロバ

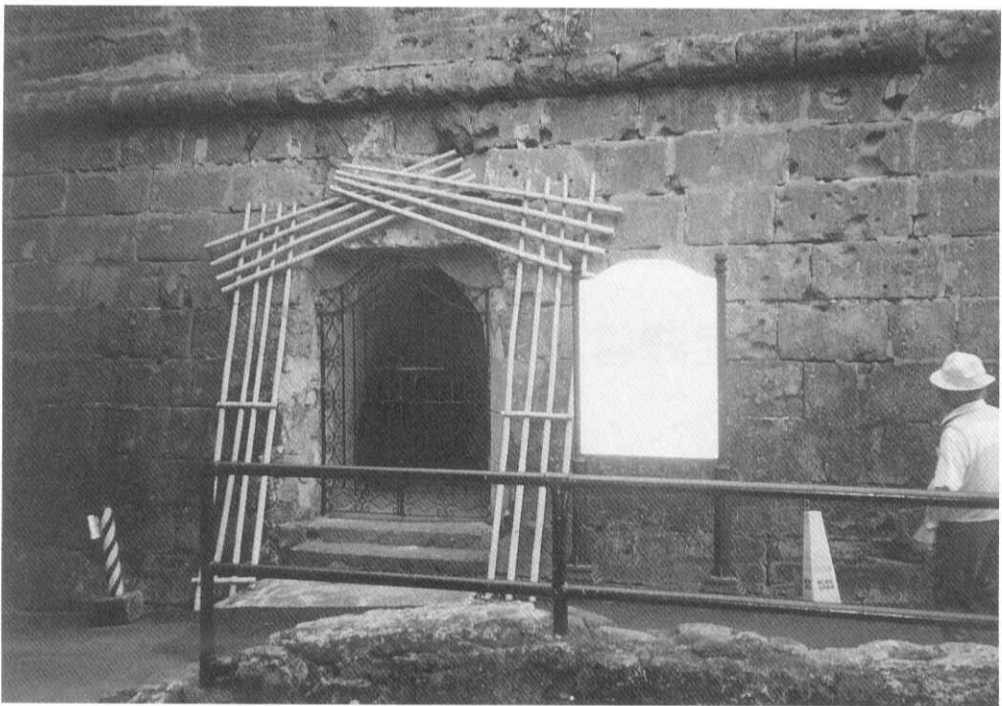
ン空港に到着した。現地には戦友や遺族によって多くの慰霊碑が建立されているが、訪れる人も少なく、現地の山下財宝探しの人たちによって荒されたり、老朽化しているものも多いため、今後の維持管理の改善を日本政府に強く求めたい。昨年体調を崩しカンギ

ポット山(三十五軍終焉の地)に登るのを断念していた坂本さん(八十一

歳)は、今年は死んでもいいから登りたいと、トレーニングを積んで参加した甲斐あって無事目的を達成された。七月二日には現地の方々と第八回目となる日比合同慰霊祭を行った。現地の方々も世代交代が激しく、随分新しい顔が目立つようになった。JA三井やご遺族より預かっていた学用品などを寄付し大変感謝された。再来年は十周年となるので何か事業を計画したい。



日比合同慰霊祭で現地の皆さんと(レイテ島ビリヤバ)



マニラ市郊外、イントロムロスのサンチャゴ要塞にある旧日本軍の牢獄。この横から2000年数十体の遺骨が発見されたが…?

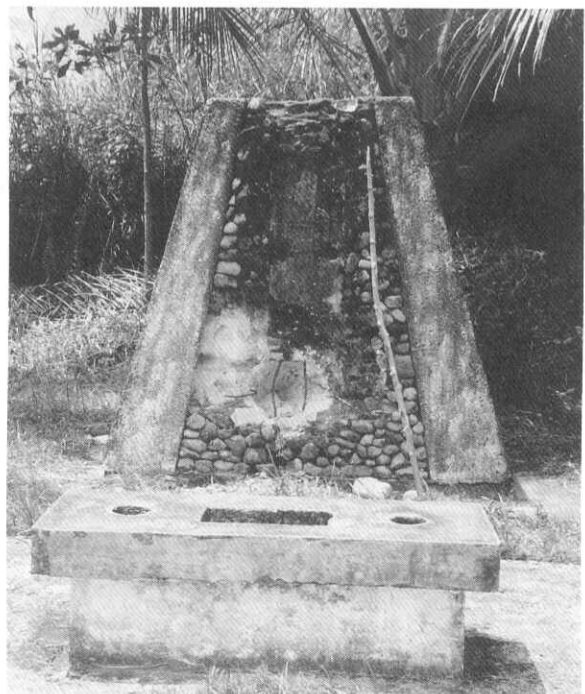
七月三日にはマニラ市イントロムロスのサンチャゴ要塞を訪れた。ここは、一九四二年旧日本軍が現地を占領した際に海軍の軍地として使用していたが、一九四五年全滅した場所である。一昨年この地から数十体の遺骨が発見された。私はっきり全滅した旧日本軍戦没者だと思えば、DNA鑑定を考えた。しかし発掘された場所は、旧日本軍が現地人を収監していた牢獄の隣であったため、その真相は不明のままであったが、旧日本軍の遺骨の可能性は低いと判断し、またその遺骨が現地の墓地に手厚く葬られたと聞き、戦争の傷跡を目のあたりにし、サンチャゴ要塞を後にした。



工兵碑で慰霊祭(レイテ島リモン近く)(工兵碑は今では管理人もいない)



遺骨は坂本茂太郎氏(僧侶)により供養され厚生労働省に引渡される(レイテ島ホルダン)



26連隊の慰霊碑と思われるが銅板は盗まれ碑はハツられ見るも悲しい(レイテ島リモン峠)